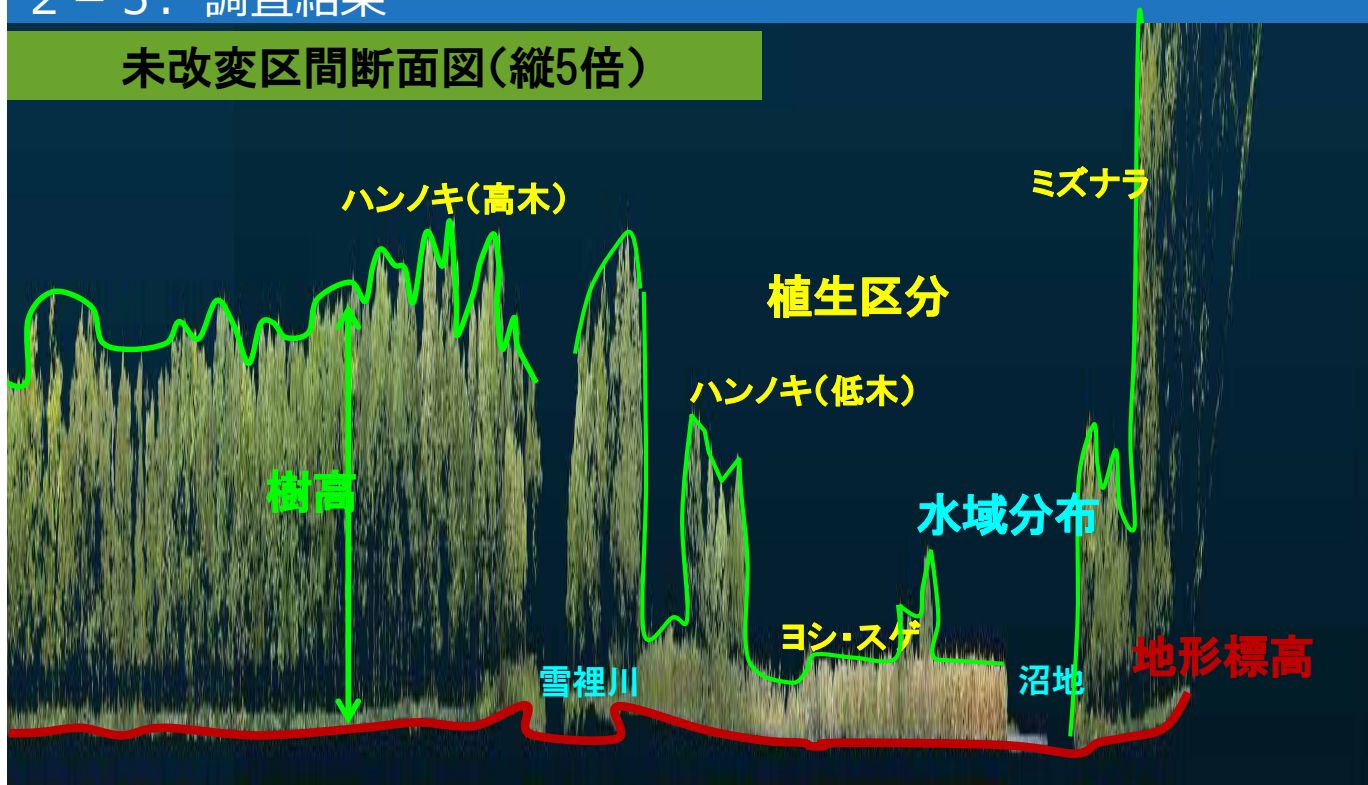


点群データ

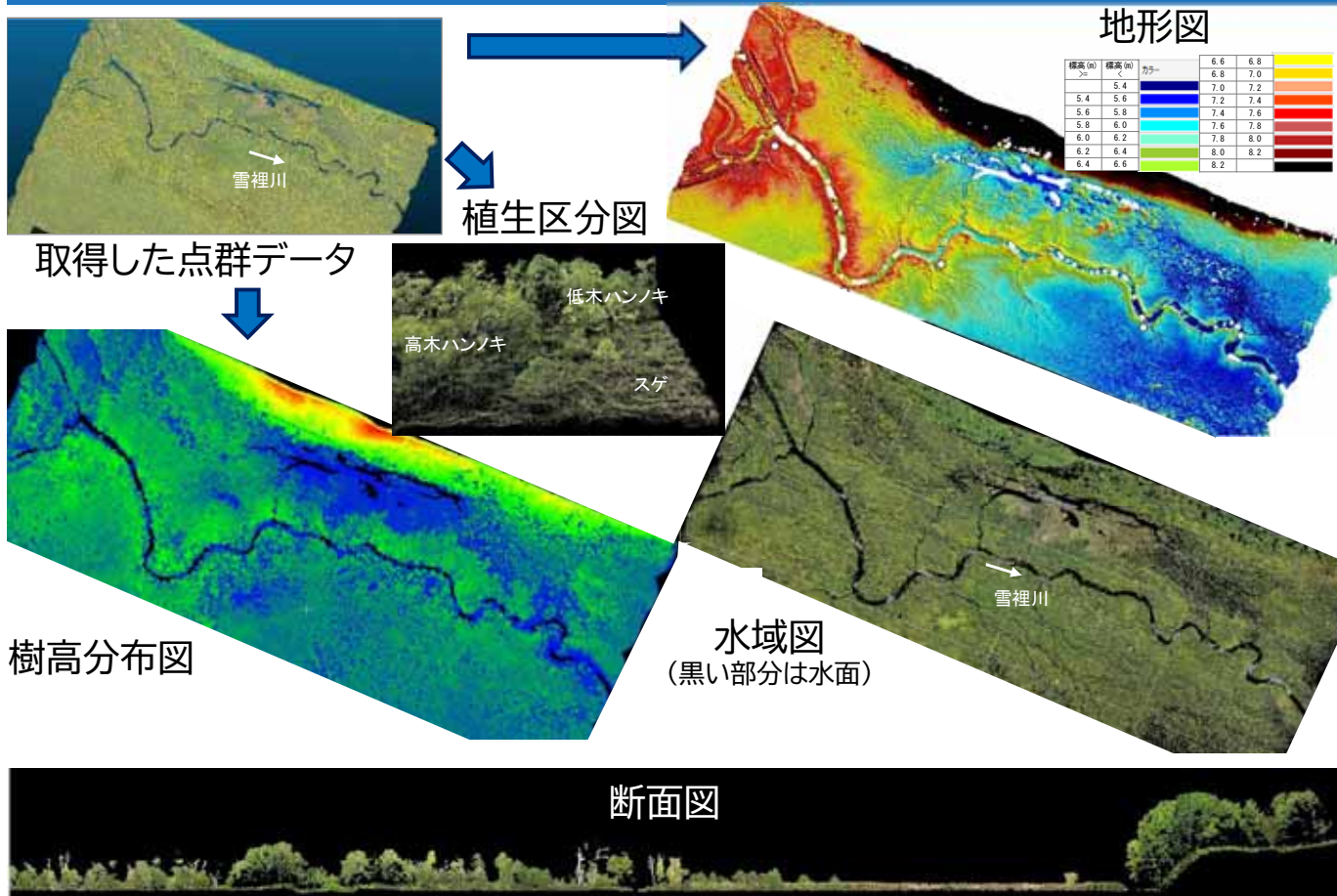


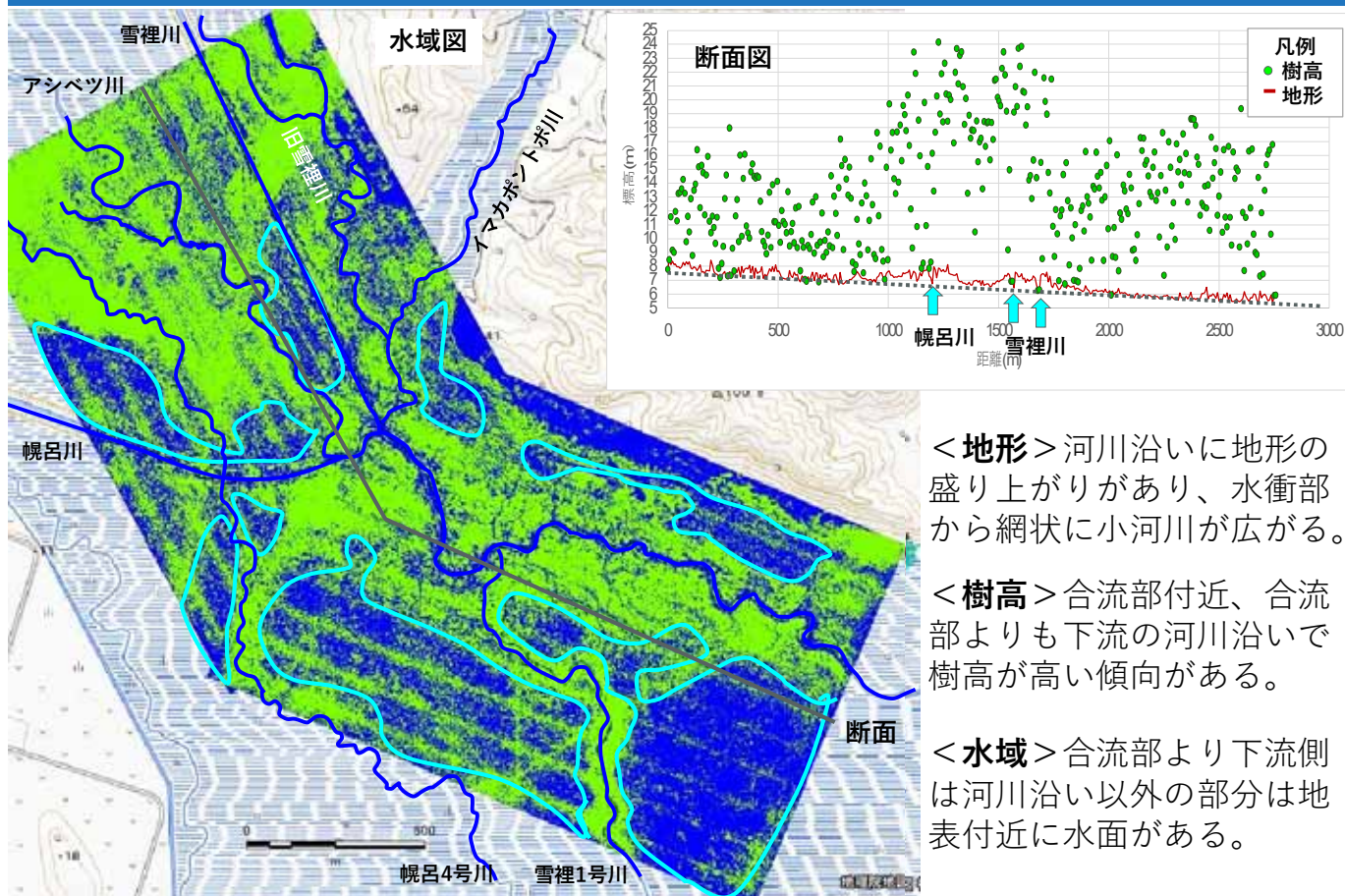
- ・ 立ち枯れした樹木が判別できる ⇒ **高密度**の地物形状データを取得
- ・ 植生の色が判別できる ⇒ 地物形状だけでなく **正確な色データ**も取得
- ・ 川・沼などの水面はデータなし ⇒ **データがない部分は水面**があると評価できる

未改変区間断面図(縦5倍)



レーザーは樹木を透過して地面までスキャンできている
⇒データから「地形標高」「樹高分布」「植生区分」「水域分布」を抽出





<地形> 河川沿いに地形の盛り上がりがあり、水衝部から網状に小河川が広がる。

<樹高> 合流部付近、合流部よりも下流の河川沿いで樹高が高い傾向がある。

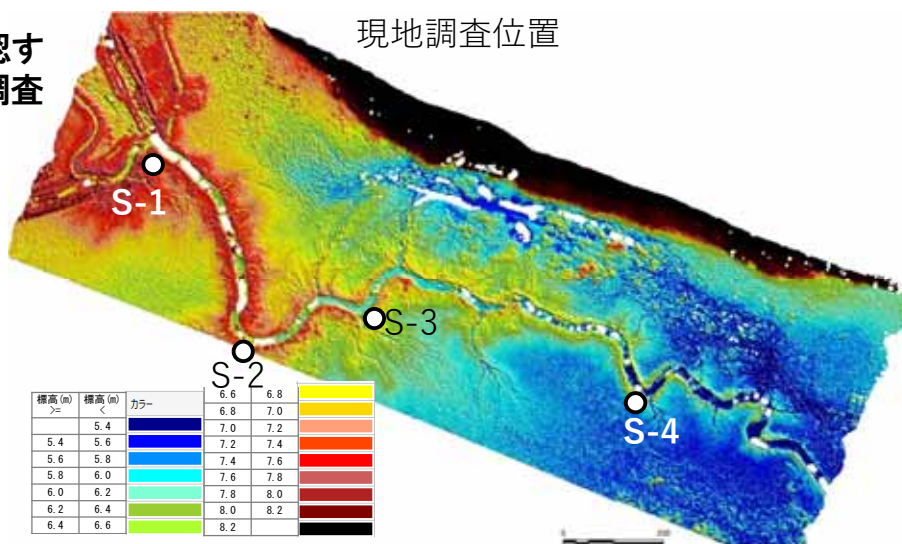
<水域> 合流部より下流側は河川沿い以外の部分は地表付近に水面がある。

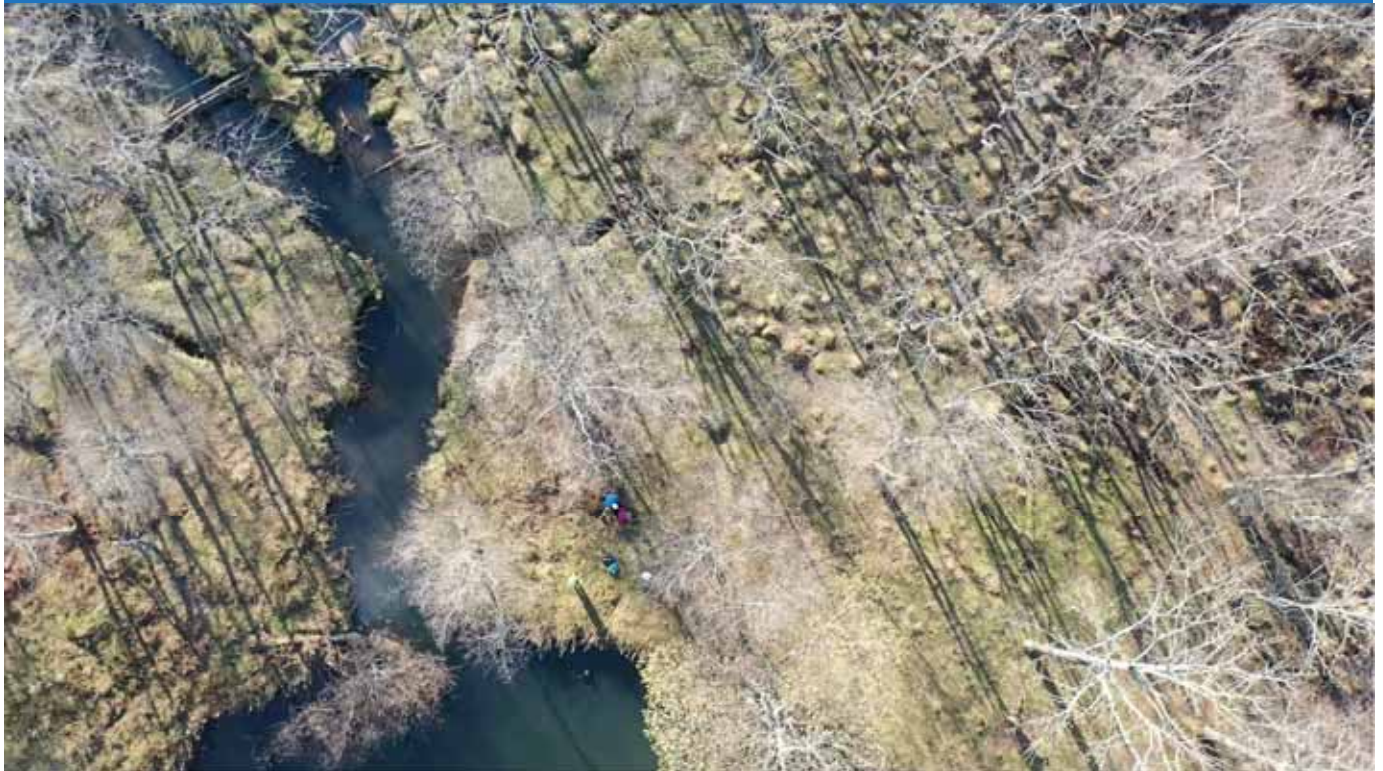
UAV調査結果の妥当性を確認するため、以下の3点を現地で調査

(1) 堆積土砂量の確認
4か所の地層、土層確認を行い、土砂堆積状況を把握する。

(2) 網状河川流況確認
雪裡川の支川等の網状河川の流動方向を把握する。

(3) 水面・植生状況確認
河道周辺の水面分布状況及び植生分布状況を直接確認する





<水面・植生確認結果>

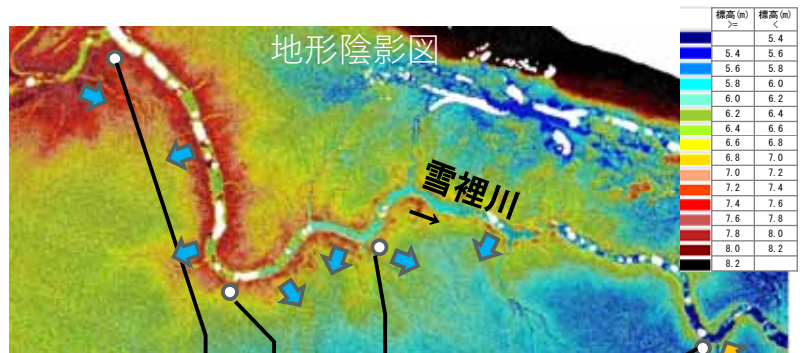
地形が高い河岸は相対的な地下水位は低いが、河川から20m程度湿原側では地表付近に水面があり高木の下でスゲが繁茂。⇒UAV調査結果と一致

<トレンチ調査結果>

- ・洪水により堆積した粘性土と砂の互層が深度70cmまで続く
- ・洪水1回での土砂の堆積厚さは10cm程度で下流側ほど薄くなる傾向

<河川流況方向確認結果>

河川水は雪裡川から網状河川へ流動。つまり網状河川を通じて湿原内部へ水・物質の供給が常に行われている。



トレンチ調査結果



拡大写真

